

# NCGM PRESS



# 12

Vol.10 冬号

National Center for Global Health and Medicine

## ▶ CONTENTS

● MEDICAL PRACTICE 糖尿病内分泌代謝科  
● 医療の現場 Vol.3 栄養管理室

● STAFF'S VOICE NCGMの看護師  
● 外来受付レイアウト変更のお知らせ



新型コロナウイルス感染症もようやく落ち着きを見せ、今年は入院患者さんを対象に4年ぶりに院内クリスマスコンサートを開催しました。

NCGMのミッションの1つである糖尿病・内分泌疾患においては、ワンストップ診療が可能となるように、今般、糖尿病総合診療センターと内分泌・副腎腫瘍センターを設立しました。今号では診療連携の皆様とより良い連携が築けるように、両センターのご紹介をいたします。

国立国際医療研究センター病院  
病院長  
杉山温人 Haruhito Sugiyama



今号では糖尿病・内分泌代謝科に加え先日開設した「内分泌・副腎腫瘍センター」「糖尿病総合診療センター」、そして関連する栄養管理室をご紹介します。また、チーム医療推進や医師の負担軽減、さらに迅速な医療提供などを目的とした特定看護師や認定看護師制度についての初回インフォメーションとしました。次号以降で順次それぞれのご説明を連載予定です。また来年1月から一新する1階のレイアウト変更情報も掲載しております。どうぞご覧ください。

国立国際医療研究センター病院  
副院長  
丸岡 豊 Yutaka Maruoka



**田辺晶代**医師 ● 内分泌・副腎腫瘍センター長  
 ・日本内科学会認定内科医  
 ・日本内分泌学会専門医・指導医  
 ・日本呼吸器学会専門医・指導医

内分泌・副腎腫瘍センター

希少な内分泌疾患を  
専門医が診療

内分泌疾患は、ホルモンの異常によっておこる病気の総称です。ホルモンを作る内分泌臓器は脳下垂体、甲状腺、副腎など体内に数箇所あり、そこで作られるホルモンは全身を総括しています。内分泌疾患は、色々な内分泌臓器に起こり、全身に色々な症状が出現します。当センターでは、糖尿病内分泌代謝科、放射線科、泌尿器科、肝胆膵外科、その他ホル

モン関連の診療をする各分野、各臓器の専門家と連携し、あらゆる内分泌疾患を診療しています。内分泌疾患は、初めの症状や検査値異常だけで見つかることはほとんどありません。高血圧や糖尿病、電解質異常など、全身性の症状として現れます。そのような異常を診察した医師が「もしかして普通の高血圧や糖尿病ではなく内分泌の病気ではないか」と疑い、そこから精密検査が始まります。

内分泌疾患の受診の窓口は糖尿病内分泌科や糖尿病内分泌代謝科ですが、多くの医療機関で、これらの診療科は糖尿病を専門とする医師がほとんどです。また一般的に内分泌疾患の患者さんは非常に数が少なく、大病院でも経験の豊富な先生は限られているのが実情です。経験がないと診断や治療が難しいため、診療実績がない医療機関では内分泌疾患に対応できなかつたり、適切な診療ができないことがあります。

そこで、患者さんをどこに紹介したらよいかを迷う先生、どこを受診したらよいか迷う患者さんの窓口となりました。糖尿病内分泌代謝科の中にある当センター

を受診していただくことで、内分泌疾患の検査、診療、治療をスムーズに提供することが可能です。

**副腎腫瘍の高難度な手術にも対応**

内分泌疾患の一つである副腎腫瘍は、副腎にできた腫瘍が副腎のホルモンを過剰に作り、全身に様々な異常を起こす病気です。そのなかには頻度がかんり少なく、国内で治療法が確立していない疾病もいくつかあります。

副腎の腫瘍や症状があればスクリニング検査を行い、その後確定診断を行い、治療へと進みます。腫瘍が良性で、1つであれば摘出手術で治療する可能性があります。手術だけで治らない場合は、放射線や薬剤などによる治療の追加が必要になります。

副腎腫瘍も稀な病気のため副腎手術経験が豊富な施設が少なく、難易度の高い手術の場合は診断がついても手術へ進めないことが大病院でも起こり得ます。当院には実績を積んだ外科医が多く在籍しており、内分泌内科医による内科的支援体制が整っているため、高難度の手術でも引き受けることが可能です。

先に述べたように、内分泌疾患はかなり稀な疾患です。疑いがあっても実際には内分泌疾患ではない人が9割を占めます。内分泌疾患ではないことがわかれば、別の疾患の診断検査を進めることができますし、実際に内分泌疾患であれば、当院で引き続き専門的な治療を受けることができます。まずは内分泌疾患かどうかを、専門医の目で見極めることが大事ではないかと思えます。そのために当センターをぜひ活用していただきたいと思えます。

●専門センターを設け、最適な治療を提供しています



**NCGM**  
MEDICAL PRACTICE

糖尿病内分泌代謝科 ● 診療の案内



糖尿病内分泌代謝科

他の診療科や研究所、地域医療機関との連携を強め、予防・治療に必要な情報提供から先進医療の提供まで、総合的な診療で個別ニーズに応える。



**梶尾裕**医師 ● 糖尿病内分泌代謝科診療科長・副院長  
 ・日本糖尿病学会専門医・指導医  
 ・日本内科学会総合内科専門医・指導医  
 ・日本肥満学会肥満症特例指導医

**総合病院の強みを生かし、研究所や情報センターとも連携して先進医療を提供**

当科は、糖尿病・内分泌・代謝疾患を専門に扱う診療部門です。関連する診療科や部門との連携によって、患者さんに最も適した医療を提供してきました。

糖尿病は初期の治療が大切であるとともに、長期にわたる経過の中で合併症や併存症対策も欠かせません。関連する腎臓内科、眼科、循環器内科などの診療科、フットケアや療養指導、食事指導、服薬指導などを行うコメディカルスタッフと密接に連携し、その人に適した診療を進めています。また、内分泌疾患についても、精査の結果、放射線治療や

外科的治療が必要となる患者さんも少なくありません。総合病院としての強みを生かし、診断から治療に至るまで、各診療科の豊富な経験のある専門家の連携によって先進的な医療を行っています。

また、研究所の糖尿病研究センターや糖尿病情報センターとも密接に連携し、膵島移植などの先進医療の提供や、糖尿病に関する情報提供を積極的に行っています。

**2つのセンターを開設し医療連携をさらに強化**

当科の扱う糖尿病・内分泌・代謝疾患は、それぞれの患者さんによって病態が異なり、その方に見合ったやり方が必要です。これまで当科では、血糖値の調整が非常に難しい1型糖尿病の患者さんに対して「先進1型糖尿病外来」を、減量のための指導や治療が必要な患者さんに対して「糖尿病・肥満外来」を、経験豊富な内分泌専門医の対応が必要な患者さんに対して「内分泌外来」を提供してきました。

最近では、より多彩な患者さんの紹介が増えており、関係者の連携の強化とともに、かかりつけの先生との連携のきめ細かい対応がますます

重要になってきています。今年8月に、糖尿病総合診療センター、内分泌・副腎腫瘍センターを新たに開設しました。それぞれセンター長を置き、関連する院内の診療科や地域の医療機関の先生方との連携をより強めることで、アクセスの利便性を高めるとともに、機能の強化を図り、従来以上に患者さんの個別ニーズに応じた診療を提供してまいります。

**糖尿病にならないために**

当院の糖尿病内分泌代謝科 youtube ページにて動画を配信しております。  
 YouTube で「国立国際医療研究センター病院糖尿病内分泌代謝科」と検索！

糖尿病の基本や、慢性合併症の「し・め・じ」と「え・の・き」、食事療法、運動療法、薬、フットケア、二次性糖尿病、1型糖尿病の血糖管理など、糖尿病に関する様々な情報について学ぶことができます。

●国立国際医療研究センター病院糖尿病内分泌代謝科の Youtube  
<https://www.youtube.com/channel/UCFCqehjMt6DSVjv17vWzd-Q/videos>

# FEATURING

●医療の現場 Vol.3



## 栄養管理室

### 安全で喜ばれる食事を提供

治療における大切な要素のひとつであると同時に、患者さんの心を癒す存在でもある食事。栄養管理室では、患者さんにとって安全で満足度の高い食事を提供するとともに、栄養食事指導にも力を注いでいる。

①栄養アセスメントに基づく栄養療法の実践  
：身体計測値や生化学検査のデータから患者さんの栄養状態を判定し、適確な食糧を主治医に提案します。また、入院支援センターに管理栄養士が常駐し、必要な患者さんに栄養管理、栄養食事指導を行い、アレルギーや宗教上必要な食事への配慮などの問診も行います。

②チーム医療の推進：低栄養の患者さんを中心に最適な栄養管理方法の提案を行うNST（栄養サポートチーム）の活動をはじめ、高機能病棟部門（ICU、HCU、SCU）と救命救急病棟における48時間以内の栄養アセスメントを含む栄養管理計画書の立案と栄養療法の実施、さらに、緩和ケアチーム、摂食嚥下支援チーム、高度肥満外科治療チーム、各診療科のカンファレンスなどに関わりま

ます。

③栄養食事指導の充実と拡大：入院・外来の患者さんに加えて、入院支援センターを通して食事療法の必要な患者さん、外来治療センターにおける抗がん剤治療中の患者さん、地域の医療機関で食事療法が必要な患者さん

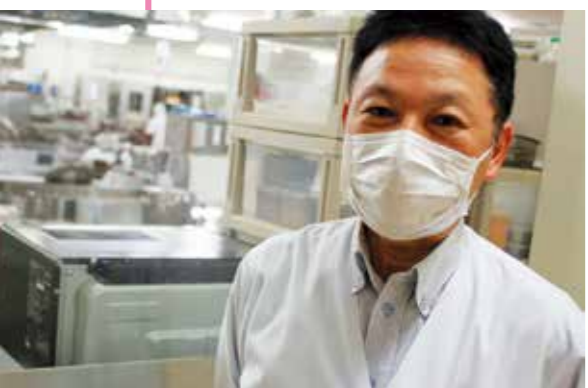
#### 6つの運営方針に基づき患者さんの食生活を支援

ん、人間ドックを受けた方への指導も行っています。

④食中毒事故防止のための衛生管理の徹底：調理室は電化厨房のため、食中毒菌が繁殖しづらい室温25℃以下・湿度80%以下を実現しています。職員は全員検便検査を毎月1回（6〜10月は月2回）実施し、下痢・嘔吐・発熱がある場合は就業を禁止しています。食材・料理の温度管理も実施し、温冷配膳車での配膳を行っています。また、食べ終わった食器類は下膳専用車で下げています。

⑤誤配膳、異物混入防止のための医療安全管理の徹底：スタッフは準備室で首の周りに粘着ローラーをかけ、髪の毛がすっぽり隠れるディスプレイを被ります。アレルギーの献立は、アレルギー食材が混ざっていないかダブルチェックを行います。また誤配膳を防ぐため、アレルギー・宗教対応の献立には色の異なるトレーを用いています。

⑥患者さんのニーズにあつた喜ばれる食事の



矢ヶ崎栄作 ●栄養管理室 室長



●管理栄養士による栄養管理室チーム。完全な栄養管理下のもと、個別に管理した食事をスムーズに提供している

提供：年4回の嗜好調査、残食調査、検査満足調査などを通じて、患者さんに喜ばれる食事の提供に努めています。例えば、全国の「ご当地メニューを月1〜2回取り入れ、料理の説明を添えて提供しており、患者さんから「その土地に行った気分になれる」と好評です。また、使用する調味料にもこだわること

で、おいしさを追求しています。

## 糖尿病 総合診療センター



坊内良太郎 医師  
●副糖尿病総合診療センター長  
・日本内科学会総合内科専門医・指導医  
・日本糖尿病学会専門医・指導医  
・日本内分泌学会専門医・指導医  
・日本肥満学会肥満症専門医・指導医

#### 様々な糖尿病疾患に最適な医療を提供

当センターは、名前に「総合」とある通り、合併症・併存症も含めた糖尿病に関するあらゆる疾患について、関連する診療科と連携することにより、最適な糖尿病の医療を提供しています。

例えば、初回指摘の糖尿病であれば、糖尿病について十分な知識のない患者さんに対して、まず必要な情報を提供した上で、最適な治療を実施することを重視しています。糖尿病は自覚症状に乏しいことが特徴であるため、継続的な治療の重要性がなかなか理解されず、受診を中断してしまうこともあります。それがい

ちばん怖いことで、初期対応を誤ると、合併症などの患者さんの不利益がどんどん増えてしまいます。そうならないように、院内の他の診療科やメデイカルスタッフ、近隣の医療機関の先生方とも連携しつつ、患者さんの理解を得ながら、適切な診療体制を提供できるように努めています。

インスリン治療が必須で治療が難しい1型糖尿病の方に適切な治療を受けていただくことを目指した先進1型糖尿病外来も開設しています。最新のインスリンポンプ療法や持続血糖モニターのみならず、脾島移植も実施できる体制を整えています。

糖尿病の合併症も、同様に初期の段階は無症状のため、適正な評価を行い、早期の発見につなげるとともに、合併症の進展予防に努めています。また合併症については、腎症における透析予防の相談や、足病変におけるフットケア・靴外来など、メデイカルスタッフが中心となって積極的に対応している点も当センターの強みの1つだと思います。

糖尿病の患者さんのうち高齢者の方は、全体の約3分の2を占めています。高齢の糖尿病患者さんの病状は様々で、元気で若い世代と変わ

らないようなADL（日常生活動作）を保っている方もいれば、寝たきりの患者さんや認知機能に問題がある方もいるため、それぞれの患者さんの状況を詳細に把握し、最適な治療を提供しなければなりません。当センターでは、多職種連携による入院中のサポートはもちろんのこと、退院後の社会的なサポート体制も整えた上で、次の医療機関に引き継ぐようにしています。

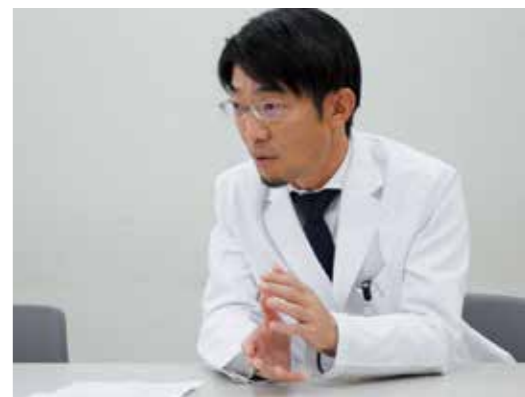
#### 高度肥満や妊娠中の患者さんにも対応

高度肥満（BMI35以上）を合併した糖尿病にも対応しています。高度肥満の患者さんは、複数の合併症を併発する場合も多く、難しい治療が求められますが、最近では薬物療法や食事療法などによる内科的な治療も可能になっています。また、糖代謝の改善を目的とした減量代謝改善手術を実施できる体制も整えています。他診療科とも連携しながら、高度肥満の患者さんの内科的・外科的な治療を展開していくことも、当センターに与えられたミッションのひとつだと考えています。

また、妊娠に高いリスクを持つ糖尿

を診療するために、産婦人科との連携を強めており、管理栄養士・看護師・薬剤師の連携による適切な血糖管理を行う体制の構築も進めています。特に難しいのが産後のフォローアップです。妊娠糖尿病になると、将来2型糖尿病を発症しやすいことがわかっていきますので、そういう方が産後、健康に育児をしたり生活を送ることができるよう、適正な産後のフォローアップができる体制づくりに進めています。

このように、様々な糖尿病疾患を持つ患者さんを受け入れることができるよう、院内はもちろん地域の医療機関等との連携を高めながら、総合的な診療体制を構築しています。



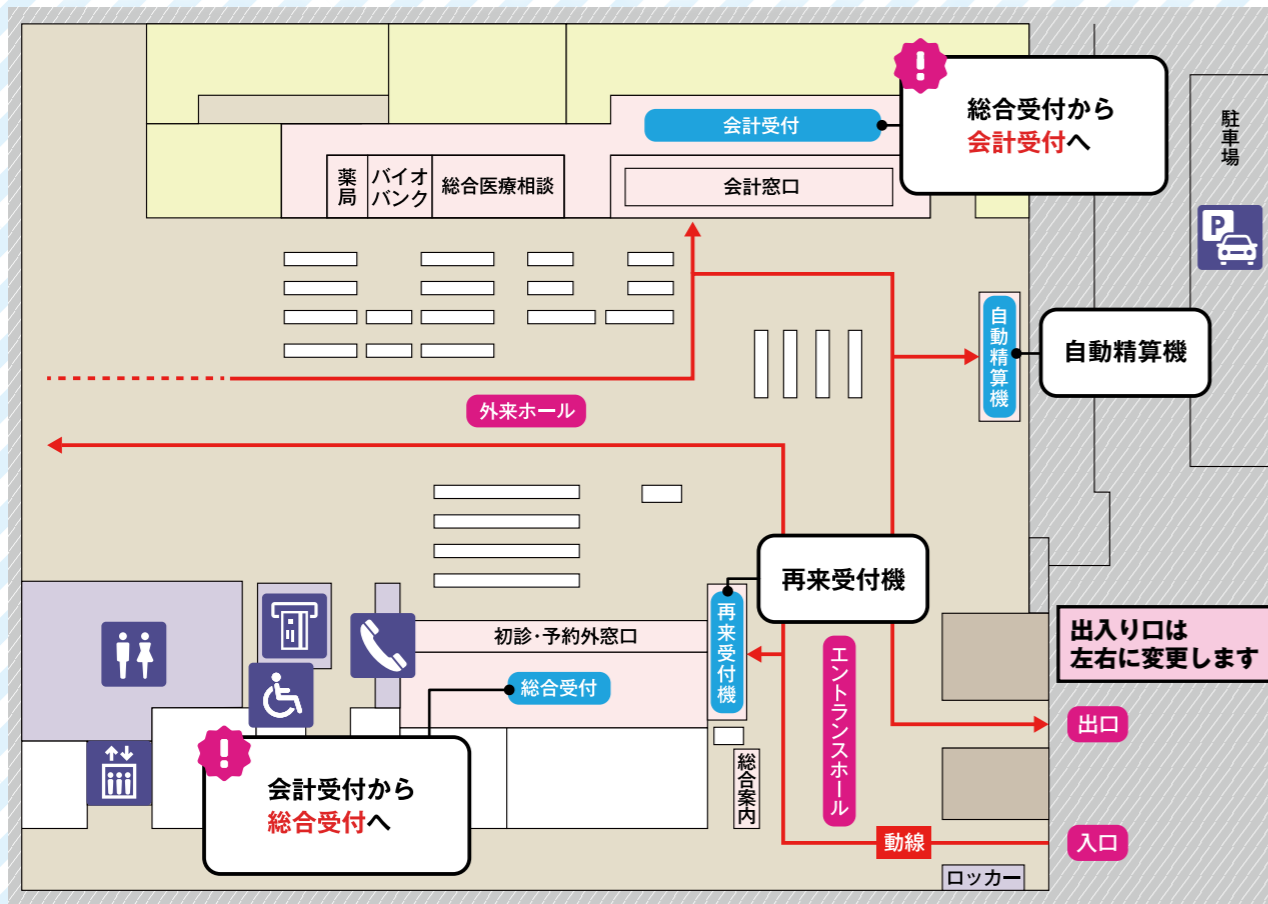
# NCGM

National Center for Global Health and Medicine

## INFORMATION

### 外来受付レイアウト変更のお知らせ ※令和6年1月4日(木)から

皆さまにはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



#### 年末年始のお休みご案内

2023年12月				2024年1月			
28日 (木)	29日 (金)	30日 (土)	31日 (日)	1日 (月)	2日 (火)	3日 (水)	4日 (木)
★	★	★	★	★	★	★	★
通常診療			休日				通常診療

#### 新システム導入について

12/28 (木) 22時～12/30 (土) 9:00の間は、電子カルテシステムの切り替え作業のため、システムが停止いたします。当該時間帯は診療への支障・遅延が予想されますのでご承知おきのほどよろしくお願いいたします。

#### 内分泌・副腎腫瘍センター、糖尿病総合診療センターのご案内



#### 院内関連部門と連携して医療にあたる

内分泌・副腎腫瘍センター、糖尿病総合診療センターは、それぞれ糖尿病内分泌代謝科と関連する診療科、コメディカル（看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師など）が連携し、内分泌疾患や副腎腫瘍、糖尿病や糖尿病合併症の診断から治療まで、最適な医療を提供します。

糖尿病総合診療センターのご案内▶

◀ 内分泌・副腎腫瘍センターのご案内



#### STAFF'S VOICE

# NCGMの看護師

## ハイレベルな看護を行います

NCGMは専門分野を持つスペシャリストとしての看護師を養成し、臨床現場にふさわしいケアを提供します。



#### 特定看護師・診療看護師 (特定行為研修修了者)

#### 医師と協働して専門分野に基づいた実践を

当院においては、現在特定行為研修を終えた7名の看護師が、診療の補助として医師と協働し、病棟・手術室・外来でそれぞれの専門分野に基づいた実践（ハイケア・救急病棟では人工呼吸器に関連した特定行為、手術室では術後鎮痛管理、外来では糖尿病療養のサポートなど）を行っています。



#### 認定看護師

#### 特定の看護分野における熟練した技術を用いた看護

認定看護師は15領域21名が在籍しています。各領域において、専門的な知識と技術を用いて、患者・家族・医療者に対して、実践・指導・相談などの活動を行い、看護の質向上に努めております。また、専門看護師・認定看護師が連携を図ることで、院内の看護活動を広げるだけでなく、地域の医療従事者との交流、近隣住民への健康活動も行ってまいります。



#### 専門看護師

#### 特定の専門看護分野の知識や技術を深めて

当院には、5領域（がん看護、リエゾン精神看護、感染症看護、急性・重症患者看護、小児看護）の専門看護師が在籍しています。専門看護師は、より複雑で困難な看護問題を持つ個人や家族、集団に、水準の高い看護ケアを効率よく提供するため、特定の専門看護分野の知識や技術を深めた看護師です。各専門性を発揮し、「実践」「相談」「調整」「倫理調整」「研究」という専門看護師の6つの役割を果たしながら院内全体や地域の看護の質向上に努めています。



◎当院の看護師チームは、患者さんの健康と安全を最優先に考え、最善の看護を提供するために日々努力しています。私たちの目標は、患者さんのケアを高品質かつ個別にカスタマイズして提供することです



## ■人間ドックセンターのご案内

長い歴史をもつ当人間ドックセンターは、その歴史と経験に基づき、お客様からの安心と信頼をいただいております。その期待にお応えできるよう全スタッフが心を込めてお迎えしております。施設内は広めのフロアでゆったりとしており、スムーズに検査を受けていただけることはもちろん、病院の専門診療科とも常に連携を取っており、ご病気が発見された際には、迅速に専門診療科へご紹介しております。

また当院の特徴として、胃と大腸の内視鏡検査が同日に行えるコースや専門診療科とタイアップしたコース、PET-CT 検査などの様々なオプション検査をご用意しており、皆さまの生活習慣や既往歴などに合わせて、ご自分でご自由にお選びいただけます。日帰りコースだけではなく、ご宿泊コースもをご用意しており、お部屋からの夜景やお食事を楽しみながら、時間にゆとりをもって検査をお受けいただけます。



人間ドックセンター

### ご寄付のお願い ～医学研究の発展と優れた人材の育成のために

当センターは、センター病院・国府台病院という2つの診療拠点に加え、研究所・臨床研究センター・国際医療協力局および国立看護大学校を擁し、高度総合医療を提供するとともに、特に感染症・免疫疾患ならびに糖尿病・代謝性疾患に関する研究・診療を推進し、これらの疾患や医療の分野における国際協力に関する調査研究および人材育成を総合的に展開しております。

当センターの活動を推進し、使命を十分に果たすためには、その活動財源を安定的・多面的に確保することが必要不可欠です。課せられたミッションを実現して国民の皆さまに成果を還元するための財源に関して、企業や個人の皆さまからの寄附によるご支援をお願いいたします。

何卒、当センターの寄附の趣旨にご理解頂き、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。



ご寄付のお願い

### 診療時間

- 外来診療時間 8:30～17:15
- 初診受付 8:30～11:00  
(紹介状を必ずご持参ください)
- ※休診日や完全予約制を設けている診療科もありますので、必ずホームページをご覧ください。



外来のご案内

### アクセス

- 地下鉄をご利用の方  
都営地下鉄大江戸線 若松河田駅(河田口)から徒歩5分  
東京メトロ東西線 早稲田駅(2番出口)から徒歩15分
- 都営バスをご利用の方  
JR 大久保駅 又は 新大久保駅より都営バス新橋行、JR 新宿駅西口より都営バス医療センター経由女子医大行「国立国際医療センター前」下車

